2025 年度

SGT　活動レポート

農業体験講座
第 2 回　棚田ツアー

5 月 24 日(土)に第 2 回農業体験講座を、静岡市の清沢にある棚田で実施しました。中学生と高校生を合わせて 29 名が参加しました。雨天が心配されましたが、曇り空のもと作業にはほどよい気温の中で作業ができました。

今回は、田植えです。生徒たちは 2 組に分かれてまず田の整備と代掻きをしました。鍬や鋤を握ったことのない生徒もいる中で清沢塾の塾生の方々に丁寧にご指導していただきながら水が入っているものの硬くなった田を耕しました。中学生は、普段使ったことのない道具を使っての作業のせいか、腰を入れて鍬や鋤を振り下ろすことが出来ず、表面をなでるような形になってしまうこともしばしばありましたが、高校生は、少しずつ丁寧に深耕し、最後に T 字型のトンボを使って田の土を平らにして田植え前の理想的な田んぼに仕上げてくれました。

休憩をとったのち、中学生は最初に田植えをします。整えられた 4 段目の田んぼに育苗箱を持っていき、清沢塾の塾生のご指導のもと苗の塊をいただき、2 株ずつ手にとって植えていきます。竹の棒に 30cm ごとに印をつけた棒を田の両サイドに置き、10cm ごとに紐で結び目を付けた紐を横に渡し、その紐を縦方向にずらしながら苗を植えていきます。今年は、「ヒノヒカリ」という品種の苗を植えました。この品種は、コシヒカリと黄金晴の交配により 1990 年に品種登録されたうるち米で主に九州地方で栽培されています。清沢の棚田では、「アサヒ」を筆頭にさまざまな品種の米を植えてきましたが、「ヒノヒカリ」が一番合っていると思うと塾長は、おっしゃっていました。

一方、高校生は 5 段目の田の整理と代掻きをしました。午前中の作業で慣れたせいか、手早く作業を進め、田植えをしました。中学生と同じ方法で田植えをしても縦と横のラインが比較的真っ直ぐ揃っているのは、さすがです。作業時間も 30 分早く終わりました。

当日は、静岡大学の農学部の学生が来られて同じ作業をしましたが、お互いに声を掛け合ってチームワークで作業をする姿に将来の姿をかいま見たような気がしました。

昼食ののち、中学生は、茶摘みをしました。八十八夜は過ぎていますが、まだまだ新芽が出ているため、一番茶を楽しむことが出来ます。茶は摘み取ったのち手でよく揉んで電子レンジに入れて乾燥させると立派なお茶になるそうです。高校生は、山側に近い田の整備を行いました。こちらの田んぼは、他校の生徒が田植えをするそうです。

清沢の棚田は、無農薬で米づくりをしているため、多くの野生生物が住んでいます。その一例として多くの種類の蛙がいることや沢蟹や蛍の幼虫が餌とするカワニナがいます。当日は、モリアオガエルの卵が木の枝に産み付けられていました。6 月になると、源氏蛍や平家蛍が飛び交うそうです。それは美しい夜の田園の光景が広がるそうです。

次回は、6 月 14 日(土)です。草刈りを行います。今度来る時は、どれだけ稲が育っているか楽しみですね。

本日の作業について、説明を聞きます。田の整地と代掻きを 2 班に分かれて行います。

水が入ってはいますが、硬くなった田んぼの土を鋤や鍬を使って耕していきます。

高校生は作業も早く、あっという間に整地してくれます。

田植えです。等間隔に苗を植えていきます。高校生は、バランスを考えながら丁寧に作業します。

中学生も塾生のご指導の下、なるべく等間隔になるように苗を植えました。

昼食です。大きな野菜がゴロゴロ入った具沢山で贅沢なお味噌汁をいただきました。

棚田で食べる昼食は、格別なものがありますが、米価高騰の折いろいろ考えさせられます。

中学生は午後、茶摘みを体験しました。若葉が眩しい一番茶です。